

臨床研究内容（研究に関する情報公開）

順天堂大学医学部人体病理病態学講座では、当大学の医学部倫理委員会の承認を得て、通常の診療・手術で得られた患者さんの組織の一部を利用させていただき以下の研究を実施します。また、症例によってはカルテ情報の一部も利用させていただきます。本研究の対象となる患者さんで、ご自身の組織や情報は利用しないしてほしい等のご要望がございましたら、大変お手数ですが下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

研究課題名：卵巣癌におけるエストロゲン作用と癌微小環境

研究機関：順天堂大学医学部 人体病理病態学

研究責任者：順天堂大学医学部 人体病理病態学 准教授 佐伯春美

研究解析期間：2019年10月1日～2027年3月31日

研究の目的：

卵巣癌は、女性ホルモンと関連があるとされながら未だ原因が不明な癌です。また、早期発見・治療が難しい癌のひとつでもあります。一方で女性ホルモンであるエストロゲンは癌に対する免疫に影響するとも言われています。私たちは、手術によって切除された患者さんの腫瘍組織検体などを用いて、卵巣癌と女性ホルモン、癌に対する免疫の関係性を調べています。この研究成果により、新たな卵巣癌の治療法開発への道を拓くことができると考えております。

研究の対象と検体：

2008年～2025年1月31日までに順天堂大学医学部附属順天堂医院で卵巣腫瘍と診断された病理組織標本（手術材料）で、病理診断目的を終えたホルマリン固定パラフィン包埋標本（既存試料）を使用します。

対象検体に付随して利用させていただく情報は、診断名、年齢、検査結果（血液検査、病理組織学検査）、治療方法、術後経過の詳細（再発の有無、再発治療の詳細）です。

研究の方法：

卵巣癌のタイプやエストロゲン関与の有無ごとに分類し、組織検体を免疫組織染色等の解析方法でタンパク質を探索します。

組織検体の一部から蛋白およびDNAやRNAを抽出し解析を行います。世代間に伝わる変異や多型の遺伝子解析はしません。

同意の取得について：

卵巣癌と診断された病理組織標本については、病理診断目的を終えたホルマリン固定パラフィン包埋標本（既存試料）のみを使用するため、患者さんからインフォームド・コンセント（説明と同意）は取得せず、その代わりに対象となる患者さんへ向けてホームページで情報を公開しております。

個人情報の取り扱い：

利用する患者さんの検体や情報は、匿名化処理をされ、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は一切削除した上で使用します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、患者さん個人を特定できる個人情報は含みません。

利益相反について：

本研究は、人体病理病態学講座の研究費および学内・公的研究費によって実施しておりますので、外部の企業等からの資金の提供は受けておりません。

経済的負担および謝礼：

本研究に関する費用を患者さんやご遺族にご負担して頂くことはありません。また謝礼等もお支払い致しません。

研究成果の帰属先：

本研究の結果として、特許権や経済的利益などが生じる場合がありますが、その権利は大学及び研究者に帰属し、検体提供者には帰属しません。

問い合わせ先：

本研究に関するご質問がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障が無い範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができますので申し出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先まで申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることは有りません。

順天堂大学医学部 人体病理病態学講座

研究責任者： 佐伯 春美

〒113-8421 東京都文京区本郷 2-1-1

電話：03-3813-3111（順天堂醫院大代表）